

第八十二卷 第一号 目次

森征一教授退職記念号

性犯罪者の釈放と電子監視

—韓国における電子監視制度の分析を中心として—

太田達也

「大東亜国際法」理論

—日本における近代国際法受容の帰結—

明石欽司

序

国分良成

法典延期派・福澤諭吉—大隈外交期—

高田晴仁

ドイツ民事訴訟法における訴訟費用敗訴者負担の原則に関する結果責任説の歴史的な展開の素描

坂原正夫

東京裁判における犯罪構成要件の再訪  
—初期国際刑法史の一断面の素描—

フィリップ・オスマン

実行の着手と実行行為

佐藤拓磨

EUの安全保障防衛政策（ESDP）と世論

田中俊郎

ヨハン・アーベルの法理論  
—物権債権峻別論の起源—

水津太郎

続・抵当権の複数の被担保債権中の一個債権の保証人による代位弁済と抵当不動産売却代金の配当  
—H17/1/27最高裁判決の「理論的分析」—

齋藤和夫

フランス民法における強迫 (violence) の概念  
—絶対的強迫 (vis absoluta) と強制的強迫 (vis compulsiva) の区別に関連して—

前田美千代

沈黙の法文化

—近代日本における法のカタチ—

岩谷十郎

『世界最古の刑法』小考  
—田能村梅士の中国法制史論—

中島三知子

岩倉使節団とイギリスの教育

—使節団の教育機関視察をめぐる考察—

太田昭子

合併等規定の問題点  
—会社法改正部分を中心に—

豊泉貫太郎

会社の「事業のためにする行為」の意義

鈴木千佳子

瑕疵概念の変容と商法五二八条の命運  
—ドイツ商法典三七八条の制定・解釈・前除の経緯から—

小山剛

北居功

「私人間効力」を論ずることの意義

EU競争法における和解 (settlement)  
手続の導入と課題

裁判員裁判における量刑評議について  
— 法律専門家としての裁判官の役割 —

介護の提供と遺贈  
— アメリカにおける遺言契約をめぐる —

日本の初期憲法思想における法実証主義と進化論

信託法上の信託か、信託類似の他の法律関係か  
— 「信託」概念の全容と信託の成立認定 —

イタリアの刑事施設の現状

— アンティゴネ協会第四回報告書から読み取れるもの —

「命ドイツ法律家」アルフレッド・

C・オプラー  
— 異文化接触としての占領期法制改革 —

日本人国際ビジネスパーソンの英語力の実態分析

— 国際ビジネスに必要とされる英語力とは —

庄司 克宏

イタリア民事司法の崩壊？  
— 破産院の危機 —

小池 信太郎

イタリアの成年養子制度

小石 侑子

エミリー・ケンビン・シユビリーと世  
紀末チューリヒの女性問題  
— 『女性の権利 (Frauenrecht)』紙から —

國 分 典 子

グロテイウスはたして近代のか

七 戸 克 彦

福祉サービスに関する苦情解決体制  
— 消費者契約の視点から —

清 水 裕 樹

竹田敏彦の通俗小説にみえる明治民法観  
正義へのアクセスと合意による紛争解  
決手段について

カズオ・ワタナベ

出 口 雄 一

「法論理」再考 — 三段論法から対話的なデ  
フォルト論理へ —

高 橋 文 彦

寺 内 一

よく鳴る風鈴の力学的考察

下 村 裕

森征一教授略歴・主要業績